

エオヒゲナガケンミジンコ属 *Eodiaptomus*

解説

オスの右第1触角の中間は太くなっているのに対して、メスはそのようにはなっていません。また、その第1触角の先端から3番目の節には、長い棒状の突起があります。ただ、この特徴はほかのヒゲナガケンミジンコにも当てはまるものがあるので、種類を特定するにはオスの右第5番目の足の形を調べなければなりません。

ヤマトヒゲナガケンミジンコ

Eodiaptomus japonicus
オスの大きさ 約1mm



(2)ケンミジンコのなかま

特徴

第1触角の端は胸部の端までとはとぎません。解剖してメスの腹部や足の形を調べなければならないため、種類の区別は困難です。しかし、オスは第1触角がくると曲がっている点で、すぐにメスとは区別がつかます。この図鑑では1種類だけ紹介します。

アサガオケンミジンコ属 *Mesocyclops*

解説

貯精囊の形が、アサガオの葉の形に似ていることから名前がついています。しかし、よく似た形の受精囊をもつものはほかにもあります。この種の最大の特徴は、第1触角の最先端の節に切れ込みがあるうすい膜がある点です。

アサガオケンミジンコ

Mesocyclops leuckarti
メスの大きさ 0.9~1.7mm



(3)ソコミジンコのなかま

特徴

図鑑によっては、その形からツツガケンミジンコという名前になっている場合があります。ソコミジンコという名前は、このなかまが湖や沼の底の泥の上をはうように動くところからつけられています。湖や沼だけでなく、湿ったコケの間や地下水、花の中にたまったわずかな水、森林の落ち葉の下にも生活しているものもいます。第1触角がとても短いのが特徴です。50種以上の種類がありますが、種類を決めるのはむずかしいためこの図鑑では紹介だけにしてあります。

ソコミジンコのなかまの一種 HARPACTICOIDA 個体の大きさ 0.5~1.0mm



3 カイミジンコのなかま

(カイミシ亜綱: OSTRACODA)

解説

「カイミジンコのなかま」は、「カイムシ」とも呼ばれます。とても多くの種類がいるとされていますが、どの種もとてもよく似ていて種類を決めるのがとてもむずかしいなかまです。この図鑑では、カイミジンコのなかまとして紹介します。光ることで有名なウミホタルは海にいるカイミジンコの1種です。

特徴

体は2枚の殻でおおわれています。殻の中から触角と足(遊泳肢)を出しています。とてもよく泳ぎ回り、植物や動物の死骸や固形物を食べます。どこでも観察することができますが、春から秋にかけて、水田やその周りの水路や池でとくによく観察されます。

カイミジンコのなかま OSTRACODA 個体の大きさ 0.5~2.0mm

